

自閉症児が家庭、学校などで楽しく生き生きと生活するための工夫 —動物介在活動やロボット介在活動での笑顔を定量的に科学する—

舟橋 厚

(藤田保健衛生大学医学部客員教授)

2016年12月28日(水) 16時～

西校舎13号館1階 13-103教室

集中講義の最後に研究セミナーを行って頂きます。文理両分野をまたぐ脳神経系の研究を実践され、齧歯類の脳の免疫学的な基礎研究の経験をお持ちの上で、自閉症や発達障害児の療育や教育の現場に科学的な指標を導入されました。文系や理系、学部間の垣根を越えてのご参加をお待ちしております。

今回、ご紹介するのは自閉症児の「笑顔(快感情)の定量的な測定」に関する研究である。

自閉症のある子ども(ASD児)の社会的・対人的行動の促進し、ネガティブな社会的行動を低減するためには社会生活の場でASD児たちに快情動場(快感情)が形成されることが重要である。

ASD児が快感情をいつ、どのような状況で生起させるかを定量的に把握できれば、ASD児が幸せに感じる社会的環境を整え、彼らを心理学的・療育学的に支援できる。

動物介在活動(療法)とロボット介在活動(療法)を題材として、笑顔を91%以上の精度で識別するコンピューター・インタフェースを用いて、ASD児および普通児の笑顔量を測定し、笑顔と、1) 社会的に望ましい行動、2) 社会的に望ましくない行動、3) アイコンタクトなどとの関連性を解析した。動物やロボットがASD児の社会的なコミュニケーション行動を促進するための有益なツールとなりうることを示す。

お問い合わせ:

研究所セミナーに関して: 甲南大学フロンティア研究推進機構(担当:青木)Tel. 078-435-2754

学部集中講義に関して: 甲南大学理工学部生物学科 久原 篤 (kuhara@center.konan-u.ac.jp)